「主体的な学び」推進委員会通信

第４号
令和８（２０２６）年１１月２５日
小郡市教育委員会

１１月１８日（水）に、味坂小学校で『STEAM 教育』に係る県重点課題研究指定委嘱校としての最終報告会を開催しました。福岡県教育長　寺崎　雅巳　様はじめ、県教育委員会、県内外の先生方、市内の先生方、地域の皆様から約500名の参加をいただました。以下の研究構想を基にした授業を公開し、子どもたちの大きな成長を報告することができま

研究の概要説明　味坂小学校　研究主任　伊藤　成海　先生



味坂小学校では、研究主題「実社会に新たな価値を生み出す子どもが育つSTEAM 教育の実践」を掲げ、3年間の研究を進めてきました。
この主題のような子どもが育つ過程においては、左の図のように、『知る』学びと『創る』学びの2つの学びが必要であると考え、「各教科での学習を実社会での問題発見と解決に生かしていくための教科横断的な教育」を意図し、最終年次は、総合的な学習の時間を軸として、各教科等の『知る』と『創る』が往還する学びを目指して授業実践を重ねてきました。

公開授業　～STEAM 教育の視点を生かした教科等横断的な深い学び～

学年：教科等・単元等・めあて	授業の様子	公開授業のよさ（支援・子どもの姿）
1年生：国語科 くわしく　かこう 「しらせたいな、みせたいな」 どうしたら　わかりやすく　つたわるぶんが　かけるかな。		○「生活科」で書いた観察カードと、自分（友だち）が書いた文の正しさを照らし合わせながら相互評価する場を設定することで、自分（友だち）の文のよさを自覚することができました。
2年生：生活科 うごくうごく　わたしのおもちゃ ～みんなが笑顔になるひみつを見つけよう～ 1年生が楽しく遊べるおもちゃにするには、どうしたらよいかな？		○1年生が楽しく遊べるおもちゃにするために、考える視点【遊び方の説明・ルール・順番等】を基に、試行を繰り返すことで、各グループ（左写真はヨットカーグループ）のおもちゃが一層楽しくなりました。
3年生：総合的な学習の時間 あじさかじまん発信隊！！ ～また来たい！と思う「あじさかさんぽ」をめざして～ 味坂のよさが動画を見た人に伝わるか確かめて、分かりやすい動画にしよう。		○地域のサポーターから、【味坂のよさ】【また来たいか】【もっとよくするなら】の視点でフィードバックをもらい、対話することで、各グループ（左写真は動画グループ）の発信意欲・内容が高まりました。
4年生：算数科 面積＜広さを表わそう＞ ～陣取りゲームを作ろう～ どうすれば、陣取りパズルのＬ字型のピースの面積を求めることができるだろう。		○総合「高齢者の方々との交流の学び」と関連付け、3D プリンターで『陣取りパズル』（右下図）を作り、ともに楽しむためにという単元のゴールを設定することで、実社会との接点から主体的な学びになりました。

5年生：国語科

～人物の生き方のすばらしさを伝える伝記交流会をしよう～

伝記交流会に向けて、友だちや生成 AI のアドバイスを参考にして、発表原稿を見直そう。



○今までの情報活用能力の積み上げを生かすことで、生成 AI からの助言を鵜呑みにすることなく、自分の判断や、友だちからのアドバイスを重視して、相手意識のある文章に改善しました。

6年生：総合的な学習の時間

Mission！味坂駅レベルアップ大作戦

～データとアイデアで「降りたい駅」をつくろう～

《共通》フィードバックを整理して、これからのグループの方向性を定めよう。



○『味坂駅の認知度を上げる』という課題意識を基に、専門的知識をもつ地域のサポーターから助言をもらうことで、各グループ（左写真はイベントグループ）の論理性・協働性・創造性が高まりました。

研究のまとめ　中村学園大学　教授　山本　朋弘　先生



味坂小学校の3年間の研究の成果をまとめると、左図のような3つの視点があります。このような深い学びに至るには、特に、課題の設定が重要です。

課題を自分ごとにするためには、①子どもの問い（？）を誘発する。②実社会・実生活との「接点」をつくる。③課題設定の過程を児童に委ねる。④自己の価値観・将来・生き方と結びつける。⑤当事者意識を育てる発表の場をつくる。といった工夫が大切です。

このような『真正の課題』を基に本校の取組を県内・市内に広げてください。

参会者からのご意見・ご感想（アンケートフォームより一部抜粋）

《市内の参観者より》

❒子どもが自分に合った方法を選択しながら学習を選択しながら学習を進めており、自己調整学習が具体的に実現されていると感じました。

❒総合的な学習の時間を他教科と横断的に関連付け、学びを深めていく実践について学ぶことができました。

《市外の参観者より》

❒1年生から ICT を積極的に活用しながら教科横断的な授業を展開されていることが印象的でした。

❒子どもが自分ごととして課題に向き合い、主体的に取り組んでいる姿が印象的でした。

❒本市も粘り強く探究する生徒を育成していきたいです。

小郡市教育長　秋永　晃生　「味坂小学校 最終報告会を振り返って」

閉会後、来賓の方々を玄関で見送っている際、みなさんが「感動しました！」と笑顔で帰っていかれました。参会者の皆さんの心に響いたものは、なんだったのでしょうか。私自身は、子どもたちが「本気で学びに向かおうとしている追究心」と「自分らしくしなやかに考え、判断し、表現している姿」に深く心を動かされました。

小郡市では、『自分で選び・自分で決める 子ども主体の授業』をめざし、この数年取り組んできましたが、当日、6学級それぞれに『わくわく感』に溢れ、学びに没頭する子どもたちの様子を見、改めて、子どもたちは、このような魅力ある授業を求めていること、また本来、学ぶことに喜びを感じ合う存在であることを実感いたしました。

校長室で6名の授業者に3年間を振り返ってのお話を伺いましたが、それぞれの先生方が授業づくりにやりがいを感じておられ、さらに、地域の皆さんへの感謝の思いを語っておられる言葉を聞き、重ねて感銘を深めたところです。

味坂小学校職員の皆様、学びを支えて頂いた地域の皆様、ご支援を戴いた関係の皆様に心から感謝申し上げます。

小郡市　市長　加地　良光　「地域の未来を担う味っ子たちに膨らむ期待！」

ポピー祭りのにぎわい創出、あじっこ市場・移動販売の買い物支援と、味坂地区の課題解決実践は、市内の地域活動を牽引してきました。その「ふるさと愛」を引き継ぐ味坂小児童の取り組みは、まさに実社会を動かす模範となるものです。昨年度の鴨のまち小郡をPRする「かもんちゃんプロジェクト」、今年度の「味坂駅レベルアップ大作戦」では、地域課題を探り、解決策の仮説を立て、情報収集、関係者や専門家のヒアリングからプロトタイプづくり、プレゼン、実践、検証…大学で行われるPBLを超える実践活動が行われています。児童の継続的な動機付けを配慮したプロジェクト・マネジメントは本当に見事です。6年間での明確な到達点をイメージした教育目標の設定、使うことが目的とならないツールとしてのICT活用、日ごろからの密接な地域との関係維持、素晴らしい挨拶の明るい学校の雰囲気…江上校長はじめ先生方の地域を担う人づくりに心から敬意と感謝を表します。